

本物の遺跡で、“発掘は楽しい”を体感

奈良大学は2014年から斑鳩町と共同で町内の遺跡調査を行っており、毎年春休みの約1カ月半、有志の学生たちが参加し、発掘調査の方法を学んでいます。学生たちは、本物の遺跡に触れながら、遺跡を掘る、記録写真を撮る、平図面を描く、出土品を調査し報告書を作成するといった一連のプロセスに携わります。現場での経験を通して実践的な発掘技術が身につきますが、それよりも一番感じて欲しいのは“発掘は楽しい”ということです。

これまでに斑鳩大塚古墳^{いかるがおおつか}、甲塚古墳^{かぶとづか}をそれぞれ4年がかりで調査し終え、今年は新たに戸垣山古墳^{とがきやま}について調査を進めています。当初は盛土の中から近世の瓦などが出てきましたが、さらに掘り進めると地面から80cm下に地層の異なる古墳時代の世界が現われました。土器や埴輪の破片らしきものも出土し、古墳であると考えられ、土の色が変わっている部分は埋葬部である可能性もあります。今年は古墳の規模を解明するところまでは出来そうです。とはいえ、遺跡は掘ってみないとわからず、予測が覆ることもしばしばです。でも、そこに尽きない魅力があります。あなたも一緒に参加してみませんか？



私自身も学生時代から遺跡調査に携わっていますが、今も未知のことに会い、壁に突き当たることがあります。そんなとき知識と経験、体力をフル動員してそこを越えてみると、新たな発見や成長があるものです。学生たちにもその面白さを実感してほしいですね。

文学部 文化財学科
専門分野 / 日本考古学
豊島 直博 教授、博士(文学) TOYOSHIMA Naohiro

文化財学科
ホンモノに
触れる



古墳の表面を探して慎重に掘り下げる作業と平図面作成のための測量。上級生と下級生が協力し合って作業を行うことで、チームワークやリーダーシップも自然と芽生えていきます。

文化財学科のフィールド・アクティビティ

- 栃木県中根八幡遺跡の発掘調査
- 奈良県三輪山祭祀遺物の調査
- 奈良県富雄丸山古墳の発掘調査